

▲「あわてないで、奥さん」

オーケストラ

なまぜ号怖かった

地震はいつ、どこで、どれくらいの規模で起こるかかわからないだけに、ふだんの心がまえが被害を最少限にいとめるカギです。

新潟県では、昭和三十三年六月十六日発生した新潟地震の教訓をイザという時に生かし、さらに災害時における正しい行動を養ってらおうと、「移動地震体験車」通称なまぜ号を導入しました。

なまぜ号怖かった

今回この車が本町に貸与され、六月九日から一週間、学校や団地などで、実際の震度を体験してもらいました。

本番の新潟地震を体験した主婦は、「こんな揺れだったかしら、もう少し小さかったみたい」と口々に話していました。署員の指導で震度7の中で、ガスストーブや石油ストーブを消す、安全対策訓練なども行い、いざという時に備え一生けん命訓練を受けていました。



▲本番さながらポンプ操法競技会

言葉遣いのいろいろ

おわびの言い方

乗り物の中で人の足を踏んだり、間違えた電話をかけてしまうなど、不注意から見知らぬ人に迷惑をかけることはよくあります。

そんなとき、「ごめんなさい」「済みません」「失礼しました」という言葉がすぐさま出てくるよう、お互いに心掛けたいものです。

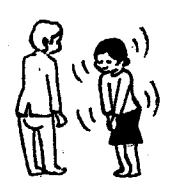
また、日常の交際や、仕事の上でおわびを言わなくてはならない機会も多いものです。

過失の場合はもちろん、やむをえない理由がある場合でも、相手に迷惑をかけた以上は、まず誠心誠意わびることが大切です。言い訳を先にしないで、また、人のせいにして口先でごまかそうとしないで、理由があってもそれを言うのはあとにして、とにかくまず謝る。「本当に申し訳ございません。私の不注意でこういうことになりました。何ともおわびの申しようがありません。」

借りた物や預かった物をなくし

たり汚したりした場合は、その訳を話してわびるとともに必要に応じて弁償の仕方にも触れなくてはなりません。このくらいのことなら謝ることもないなどとたかをくくらないで、相手の身になってよく考えてみましょう。

といって、あまり物言を深刻に考え、自責の念にかられて謝る勇気も出ないようでは困ります。起きたことは起きたこととして率直に謝ることです。誠意が通じれば相手も寛大にに応じてくれるのが普通です。



善意の窓

●立仏 滝川菊代さん
オシメ百数十枚を寄附(本人の希望で山田校区内の、寝たきりのお年寄りに配布されました。)

都合により、今号「私の視点」は、休ませていただきます。



六月十一日(日)、総合体育館がオーケストラの華麗な音楽に包まれました。この日は、町の小学校高学年と中学校の児童を対象にした移動音楽教室の日です。

移動音楽教室は、県と町の教育委員会と関関信越音楽協会新潟支部の主催で、日ごろ生の演奏に触れる機会のない地域で開かれるものです。今年は西蒲原郡、三島郡、刈羽郡の各町村を廻り群馬交響楽団(群馬県高崎市)が巡回公演しています。

群馬交響楽団は、歴史も古く、すぐれた演奏をしている有名なオーケストラです。

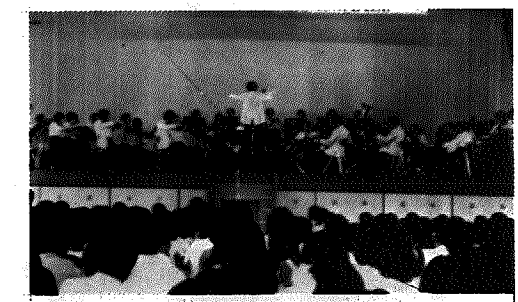
音楽教室は、午後二時から始まりました。最初に、宗村栄助教育長の「私たちの町でも、毎年、音

オーケストラがやってきた

楽祭が開かれますが、今日はオーケストラを聞くことができず、みんな、マナーを守り、静かに聞いてください。というあいさつがありました。

つづいて、群馬交響楽団の渡辺政三さんが、「チューニングはオーボエのラ」の音で合わせます。と言つと、オーケストラはチューニング(楽器の音を合わせる)を始めました。

そして、いよいよ演奏です。音楽教室ですので、渡辺さんが演奏曲や楽器についてわかりやすく解説します。最初の曲は、モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」序曲です。オーケストラが美しい音色を奏で始めますと、最初は少し騒がしかった子供たちは、ピタッと静

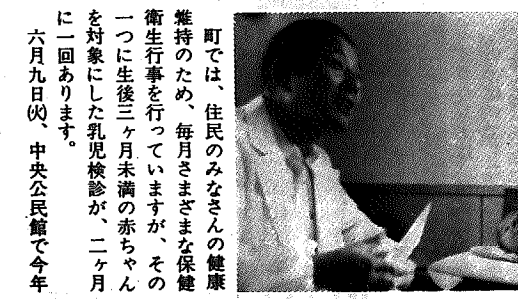


かになりました。

プログラムは、ベートーヴェンの「運命」、オーケストラの楽譜紹介曲(フォスター曲集など)とつづき、ちよつと休んで、オーケストラの演奏にあわせ、子供たち全員で、「ふるさと」を合唱しました。さらに、ヨハン・シュトフスの「ウィーンの森の物語」、最後にハチャチュリヤンの「仮面舞踏会」が演奏されました。

佐藤由紀子さん(大野小五年)から、お礼の花束が指揮者の久志本涼さんに渡され、会場は拍手の渦です。そこで、アンコール曲として、ベンジャミン・ブリテの「マネチ・ミュージカル」が演奏され、移動音楽教室は深い感銘とともに終了しました。

渡辺さんは、「この演奏会をきっかけに、少しでも音楽に興味をも



つてもらえれば。」と言っていました。本町でも、近年は音楽活動が盛んです。この演奏を聞いた子供たちから、将来、大音楽家が出てほしいものです。

消防合同演習に

五百人が参加

みなさんの生命と財産を守るため、日夜活躍を続けている、町内消防団員の一斉訓練が、六月十四日、児童交通公園と総合体育館駐車場を利用し、放水訓練やポンプ操法競技会などが行われました。

この日参加したおよそ五百人の団員は、早朝七時から児童交通公園に集合。合図とともに二十数台のエンジンがゴウ音を発し、梅雨空に向け一斉に放水が行われました。

また、総合体育館駐車場では、

全団員が整列。消防長の訓辞を受けた後、各団からよりすぐった団員が参加して、ポンプ操法競技会が行われ、本番さながらのきびきびとした動作で競技が展開され、一位に寺地分団、二位に金巻分団三位に小平分団が入賞し、午前十時、全訓練を終了しました。

乳児検診

三回目の乳児検診が行われました。検診は、町内のお医者さん(今回は大塚先生と伊田先生)、看護婦さん、保健婦さん、助産婦さんなどがあつて行われました。

今回、対象となった赤ちゃん四十五人のうち四十人がお母さんと一緒に受診しました。検診は、最初に全般的な問診に始まり、身長・体重・胸囲・頭囲の計測、お医者さんの診察、栄養士さんからの離乳食についての栄養指導、保健婦さんの保健指導の五段階に分けて注意深く行われます。

まだまだだれの間もない赤ちゃんはお母さんの温かい愛情に見守られて、検診を受けていました。この赤ちゃんがすくすく育つて、大人になる二十一世紀は、少しでもよい世の中だといえますね。

